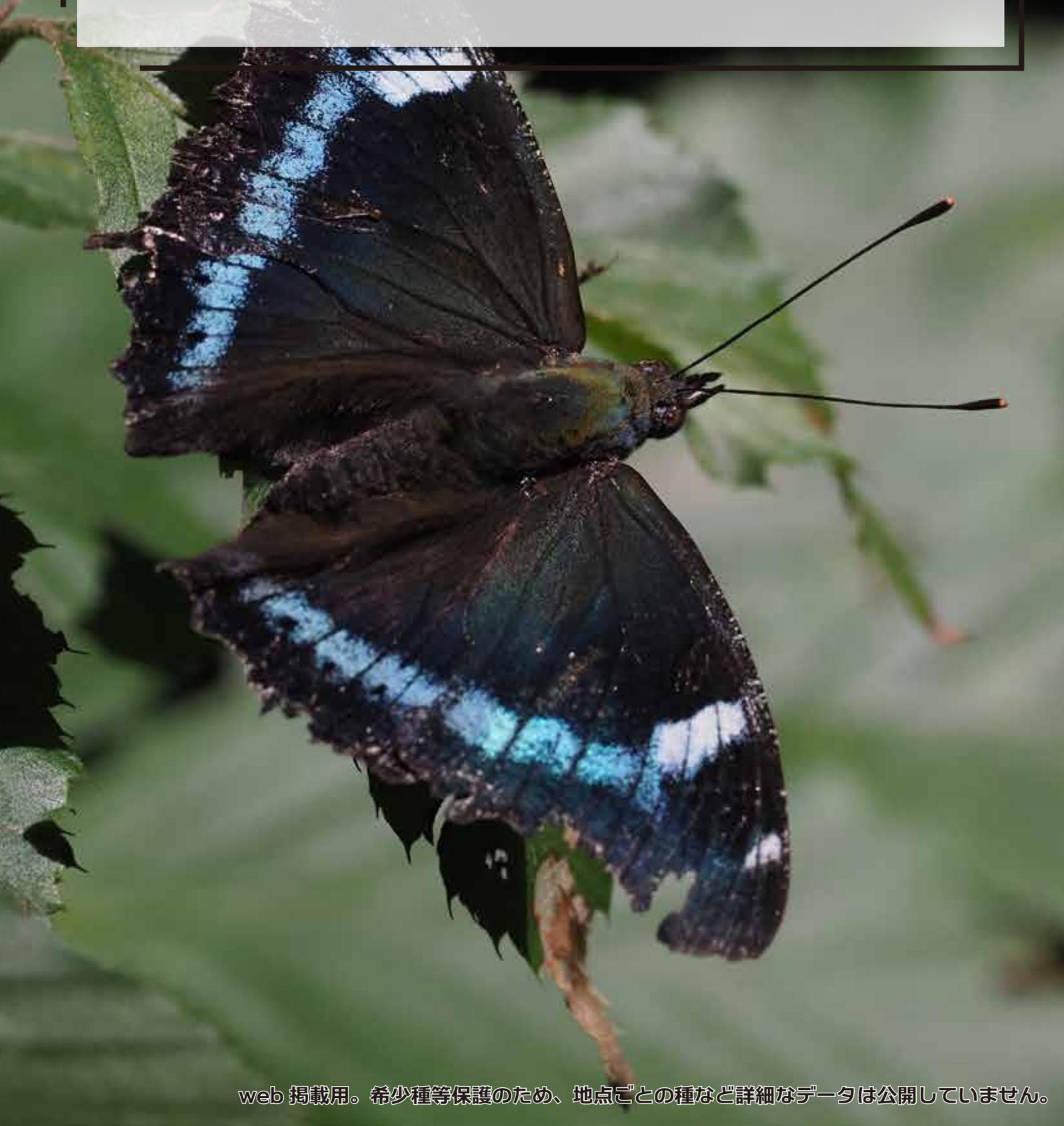


練馬区立 中里郷土の森緑地

令和 3 年度モニタリング調査結果



PURPOSE & METHOD

目的

- ▶ 地域の生物相の解明
- ▶ 区民のみなさまに自然の魅力を発信するための材料づくり

調査方法

踏査により発見された動物類^{※1}全般、維管束植物を記録する。動物類は個体数を記録。植物類は基本的に開花結実状況^{※2}がみられるものを記録した。また、調査日以外に確認されたものがあれば追加で記録している。

1 中里郷土の森 園内調査

- ▶ 週に1回実施。
- ▶ 植栽株^{※3}を別途記録。
- ▶ 園内小川の底生生物調査を年1回以上実施。

2 周辺緑地調査

- ▶ 月に1回実施。
- ▶ 中里郷土の森周辺の緑地を調査。
- ▶ 8月に1回、ライトトラップによる夜間調査を実施。

3 河川調査

- ▶ 年に1回実施。
- ▶ 白子川、石神井川の指定区域内を調査。
- ▶ 踏査の他、タモ網、カゴ網による採取も実施。

※1：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類を対象とし、その他特記すべきものは別途記載。河川調査では魚類、甲殻類、その他底生生物も記録。

※2：シダ植物は年度の初認時に記録。その他、記録が無いものや特記すべきものうち、樹齢や管理状況により開花結実が期待できないものを別途記録。

※3：状況や記録から明確に植栽とわかる種。不明なものや逸出したものはいずれの調査でも記録している。

ナラ枯れ調査

調査範囲内でカシノナガキクイムシによるナラ枯れ（ブナ科樹木萎凋病）が見られるようになったため、発生状況や枯死状況などを調査した。

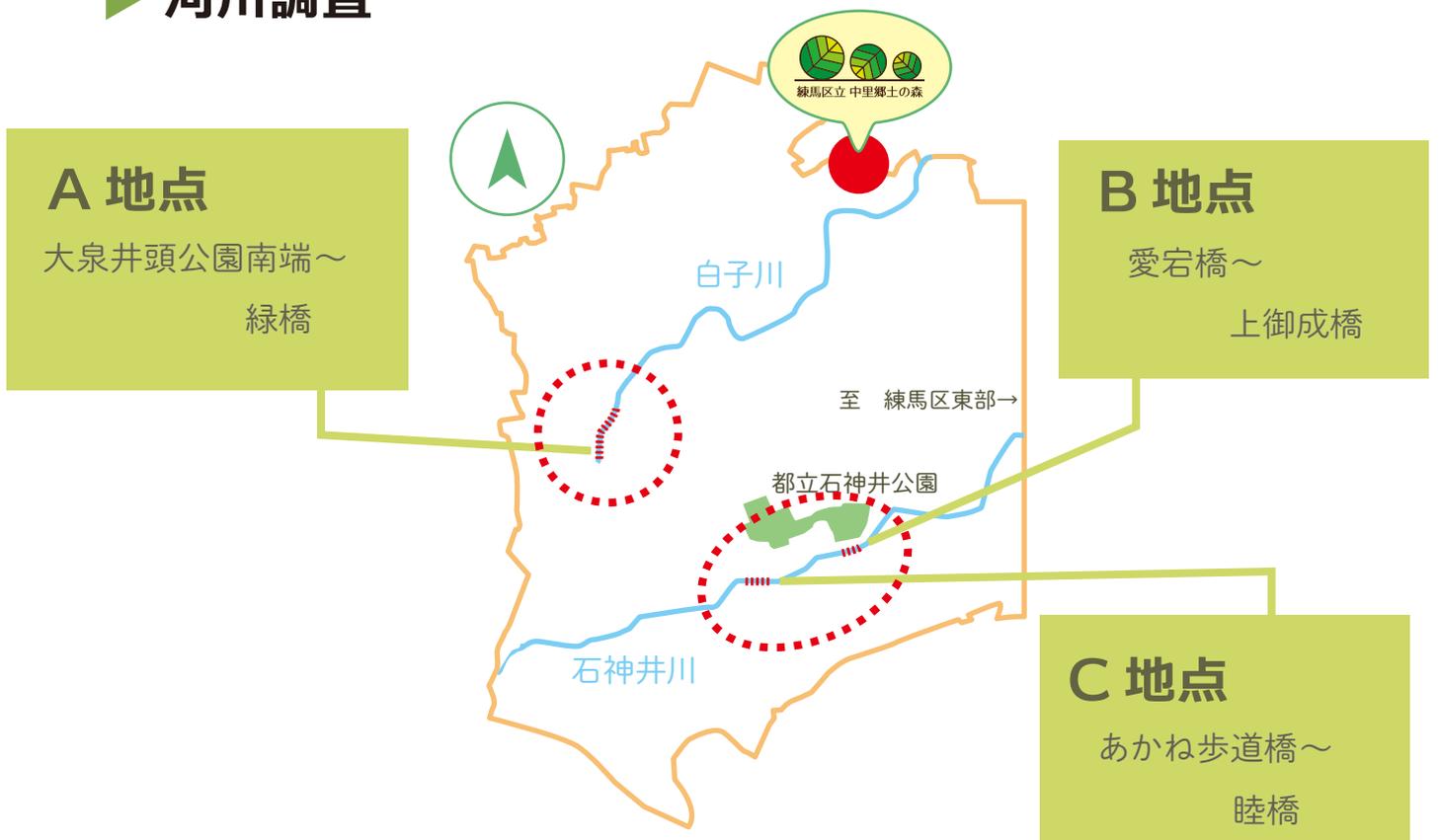


調査範囲

▶ 中里郷土の森とその周辺緑地



▶ 河川調査



RESULT

絶滅危惧種

ENDANGERED SPECIES

ツミ



絶滅危惧 I B 類 (EN)

日本最小のタカ類。
今回の調査では、最低 3 個
体いることが確認された。
同じタカ類で都区部 EN の
ハイタカ、オオタカも記録。

ハツカハムシ



絶滅危惧 II 類 (VU)

本調査では初記録。
白子川沿いで発見された
が、周囲に食草は無いため
繁殖地は別にあると考えら
れる。

ゴマギ



絶滅 (EX)

中里郷土の森外縁で発見。
造成工事で埋土種子が発芽
した可能性があるが、客土
に種が混じっていた可能性
も検討する必要がある。

ランクは「東京都の保護上重要な野生物種（本土部）2020年版」区部のものを参照。

今回見られた絶滅危惧種

今回の調査では、都区部で絶滅危惧種とされている種を 52 種 (NT, DD 含む) 確認した。
なお、植栽や明らかな逸出等は含めていない。

ニホンアマガエルなど、逃げ出し個体の可能性を否定できないものもある一方、清水山の森や稲荷山憩いの森などに雑木林の環境が残されていることで、カタクリやヤマブキソウをはじめ、ギンランやクサスゲなど様々な種類の生物が絶滅を免れている。

ヒガシニホントカゲやニホンカナヘビは都区部では絶滅危惧 I 類とされているが、調査範囲内はほぼ全域で確認され、個体数も多い。
中里郷土の森では造成当初はほとんど見られなかったが、年々個体数が増えている。

種名	みられた緑地	都区部 RDB
ゴマギ	中里郷土の森	EX
クサスゲ	清水山の森	CR
ヤマブキソウ	清水山の森	CR
ヒガシニホントカゲ	ほぼ全域	CR+EN
ツミ	中里郷土の森など	EN
ニホンアマガエル	中里郷土の森	EN
ホトケドジョウ	白子川	EN
ミヤマアカネ	白子川	EN
ヒオドシチョウ	中里郷土の森	EN
ギンラン	清水山の森など	EN
ハツカハムシ	白子川沿い	VU
オオミズアオ	中里郷土の森	VU
カタクリ	清水山の森など	VU
ホンモンジスゲ	もみじ山公園	VU
カンガレイ	白子川	VU

今回確認された絶滅危惧種の一部（詳細は別紙参照）

その他特徴的な種

コガモ



周辺緑地調査にて、白子川沿いにて確認。上流部では以前も確認されていたが、本調査内では初記録。10羽以上の群れて飛来した。

トノサマガエル属 sp.



※写真は調査時と別個体

目視のみの確認のため種同定に至らなかった。少なくとも調査範囲内では繁殖しておらず、飼育個体の逃げ出しの可能性もある。

アライトツメクサ



北日本を中心にみられる帰化植物。近年関東地方でも記録されており、今回は八坂神社で確認された。今後の動向に注目したい。

外来種

中里郷土の森と周辺の外来種



特定外来生物の種数は少ないが、今回ガビチョウが初確認された。その他にも侵略的外来種は多数確認されているが、清水山など特に保全が必要な地域では管理が行き届いていることもあって外来種の割合は比較的少ない。

特定外来生物

- ・アカボシゴマダラ
 - ・ガビチョウ
- 計 2 種

生態系被害防止外来種

- ・セイタカアワダチソウ
 - ・カラシナ
 - ・シナサルナシ …etc.
- 計 35 種

白子川・石神井川の外来種



ミズヒマワリやオランダガラシなどの繁茂が著しく、両河川とも侵略的外来種の種数も優占する面積も多い。ただ、駆除活動が行われている一部区画などでは、カンガレイなど外来種が優占できている箇所もある。

特定外来生物

- ・オオカワヂシャ
 - ・ミズヒマワリ
 - ・オオフサモ
- 計 3 種

生態系被害防止外来種

- ・オランダガラシ
 - ・キショウブ
 - ・ハビコリハコベ
 - ・アメリカザリガニ …etc.
- 計 19 種

また、特に白子川源流ではアメリカザリガニの個体数が多く、生態系に影響を与えていると考えられる。

緑地ごとの特性



中里郷土の森

他の緑地と比べ狭い面積の中に様々な環境が内包されているため、調査頻度の高さを考慮しても多くの生物種が生息している。畑や他の緑地から飛来する種も多く、毎年違った生物が見られる。

この場所のみで確認



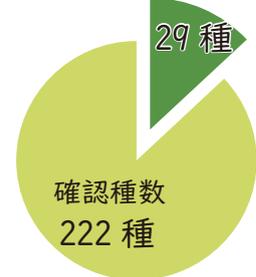
比較のため底生生物調査の結果は除いている。



もみじ山公園

樹林地だけでなく広い面積の低茎草地があり、ショウリョウバッタやヒメグなど草地性の生物がみられるのが大きな特徴。樹林地内にアズマネザサが広く残されているのも特徴的で、小動物の隠れ家として機能している可能性がある。

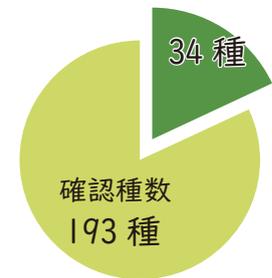
この場所のみで確認



白子川沿い(万年橋～越後山橋)

護岸上を覆うようにヒメツルソバなどが生育している。その他にも園芸逸出とみられるものも多く、帰化植物の優占度が高い。一方、僅かでも植生があるのが幸いしているのか、カルガモやセキレイ類などは恒常的にみられる。

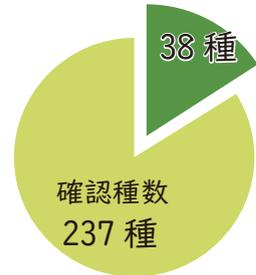
この場所のみで確認



清水山の森

カタクリの保全に伴う管理で、良好な雑木林の環境が保たれている。絶滅危惧種以外にも、ノダケやゴンズイなど区部では比較的数量が少ない種が多い。湧水環境にはシマアメンボなどが生息しており、こちらも貴重な環境といえる。

この場所のみで確認



稲荷山憩いの森

区内の憩いの森の中では最大の面積を誇る。カタクリなどが生育する区画では、シラヤマギクなど清水山にいないか少ない種も生育している。また、一部斜面のスギなどを伐採して明るくなったため、環境の変化に注目したい。

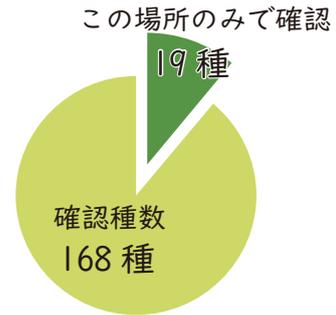
この場所のみで確認





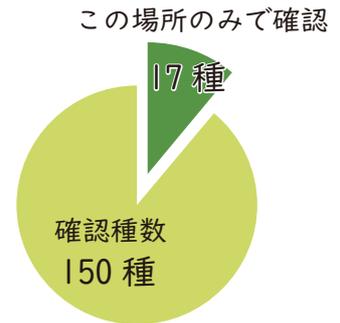
土支田八幡宮

ほとんど一面が暗い常緑樹林のため見られる生物種数は少ないが、ユキノシタやヒメウスなどやや暗い環境を好む植物が生育している。また、一部明るい藪のようなエリアもあり、他の緑地にはみられない環境が残っている。



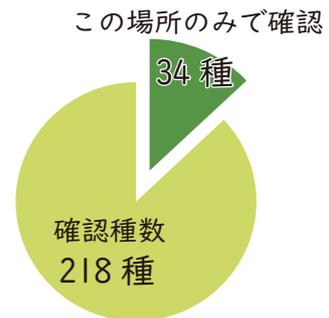
越後山憩いの森

他の緑地と比べ面積が狭く、生物種数も少ないが、雑木林の環境が残されている。また、単木ではあるがヒメカジイチゴやヤマウコギ、クマシデなど都区部ではあまり見ない種も残されている。



八坂神社

神社に隣接する富士塚にはツリガネニンジンやアキカラマツなど草地にみられるような種が多く生育し、他の緑地と比べかなり特異的な植生がみられる。夏から秋に咲く花が多く、時期になると多くの虫が飛来するのが観察できる。



河川調査



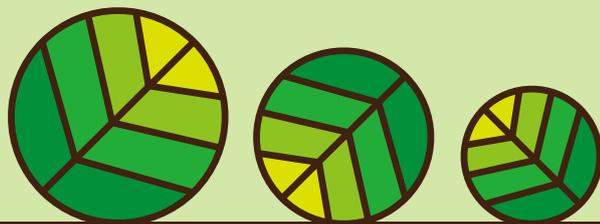
白子川

カンガレイやヒメガマなどが繁茂する源流付近を除き、調査範囲の多くをミズヒマワリやキシヨウブなどの侵略的外来種が優占している。一方、ミクリ類が2種類みられ、他にもホトケドジョウやミヤマアカネなど、貴重な生物もかなり確認された。



石神井川

白子川同様に護岸されているが、アイノコイトモのような沈水植物や、岸边にはヤナギ類が生育しているのが特徴的。また、底質が砂であるため、ヒガシシマドジョウが多く見られる。白子川の調査地点より川幅が広く、流速も速いが、一部流れの緩やかな場所ではアブラハヤなどの魚類が多く確認できた。



練馬区立 中里郷土の森

Address : 練馬区大泉町 1-51-2

TEL : 03-3922-3021

Mail : nakazato@ces-net.jp

<https://www.ces-net.jp/nakazato/index.html>